

## 石巻緊急支援プロジェクト終了報告

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震。東北地方を襲った未曾有の災害をまのあたりにして、これまでイラクの子どもたちの支援に特化してきたJIM-NETも、被災地に入り支援することを決めました。混乱を極め刻々と状況が変わる中、被災地では何が必要で、JIM-NETには何ができるのか。一刻も早い支援が必要とされるなか、試行錯誤しながらも終始立ち止まることなく支援活動を続けてきたこの1年です。手探りの中にあってもいろいろな支援を実施できたのは、ひとえに皆さまのご協力があったからこそと、心より感謝申し上げます。多くの被災地はまだまだ復興の道半ばにあり支援を要しておりますが、まずはこの1年の皆さまの温かいご支援に御礼を申し上げるとともに、これまでの活動をご報告致します。



支援に関するたくさんのお申し出やご助言をいただきました。  
またボランティアとして多くの方にご協力いただきました。  
皆さまの温かいご支援に改めて心より感謝申し上げます。

東日本大震災に対する支援として  
お寄せいただいた寄付金の総額  
(2011年3月12日～2012年3月31日)

**30,018,703円**

**1,300,500イラクディナール(約84,431円相当)**

**100米ドル(約7,981円相当)**

～初動～

3月19日 震災後いち早くスタッフの熊谷を山形へ派遣。

3月20日 IVY(国際ボランティアセンター山形)が中心となって立ち上げた東北広域震災支援NGOセンターに加わり、石巻市など宮城県内において被災者からの聞き取りをし、必要とされる支援物資を届けながら現地調査を行う。

～主な活動～

★千人風呂プロジェクト…仮設風呂の運営  
不動の湯・希望の湯・日帰り温泉バスツアー

★地域医療

・河北地区の保健・介護保険業務のサポート  
・諏訪中央病院の医師が交代で駐在し、雄勝診療所・東松島のクリニックで診療を行う。

介護保険の業務が落ち着いた後、仮設団地の集会所を借り、住民が集まれる場としてコミュニティサロンを開いた。

---各活動について---

### ★千人風呂プロジェクト★

4月初め。鎌田代表が『お風呂は、清潔を保ち、感染症対策に重要だ。何より、精神的にも安定をもたらす。3週間も入浴できていないというのは、問題である』と設備提供の呼びかけをスタート。

《不動の湯》 担当：熊谷宏 (JIM-NET)

児玉崇 (中央正和会)

4月6日 永巖寺『不動の湯』スタート

長野県松本市の神宮寺、ピースポート、ルピナ中部工業、石巻市中央地区の防災会『中央正和会』の協力を得て、中央正和会が地域住民を対象に、炊き出しや支援物資の管理業務、防犯活動などを行っていた永巖寺駐車場内(石巻市羽黒町)に設営。

風呂の設備は、ルピナ中部工業が提供した大型ボイラー、ポンプ、ディーゼル発電機、2×4メートルのビニールプールからなる。配管等の工事はルピナ中部工業のエンジニアが担当。燃料は灯油。水は永巖寺墓地内の震災の影響をほとんど受けなかった水道水を使用。水と燃料は2012年3月までは石巻市が負担。



7月15日 現在地に移転 (石巻市中央1丁目7-13)

8月15日 運営の主体を中央正和会に移管。(一部資金サポートを11月末まで継続) 現在も『石巻 千人風呂』として運営。コミュニティスペースとしての役割を強化し、近所の空き店舗を借り受け、街の再興のための新しい拠点づくりをしている。

《希望の湯》担当：西村陽子(アラブの子どもとなかよくする会)

4月16日 石巻市立湊小学校避難所『希望の湯』スタート(亀山石巻市長命名)

朝田商会、グリーンエナジー、サイエンス、小西造型をはじめ、10社ほどの企業により小学校の校庭に設営。燃料は市内の民家などを解体した木材。3×5mの幼稚園プールを再利用した浴槽、ボイラーやろ過装置など、専門家が力を結束し、巨大仮設風呂が完成。



9月17日 希望の湯終了

5か月間で入浴者数は2万人を超えた。

10月 湊小学校避難所 閉鎖

《日帰り温泉バスツアー》

4月～5月初旬にかけ、渡波小学校避難所などから涌谷天平の湯へ6回ほど行なった。

### ★地域医療★

担当：川添圭子看護師・重岡美智子看護師

(JIM-NET)

3月末 石巻や女川を訪問。

4月初め 涌谷町町民医療福祉センターを拠点として、河北地区の医療ニーズの調査を決定。

7月 諏訪中央病院の医師派遣が単発型から駐在型へ。職員や患者がほとんど流されてしまった公立の雄勝病院が無医村地区として最重要問題の一つとなっており、雄勝地区の診療をスタート。

9月 在宅介護支援センターなどが機能し始めたのに伴い介護保険業務のサポートを終了。

2月初め 諏訪中央病院の医師派遣が終了

3月末 業務終了

河北地区はいくつかの集落が流され、破壊的な被害を受けた。介護システムは破壊され、ケアマネージャーも行方不明となった。また、石巻赤十字病院で応急処置を受けた人たちが運ばれて来た為、身元確認などに追われている間に、介護の必要な高齢者が15人(826人中)以上亡くなったそうだ。

石巻赤十字病院や石巻市役所と話し合い、介護を受けている高齢者の実態調査など、河北支所のサポートを開始。

看護師としての仕事に加え、各地から来るボランティアのコーディネーターも兼務した。

### ★お茶っくらぶ★

9月 仮設団地の集会所を借り、体操や脳トレ、手芸、ゲームなどを行いながら支援を開始。

スタッフは極少数のみ置き、住民の自立を目的とし、住民が自ら運営できるようサポートした。

3月 運営を『石巻千人風呂』に移管。



## ～イラクからの支援～

### ★バグダッド 津波支援コンサート

青少年オーケストラがチャリティーコンサートで日本への支援を呼びかけてくれた。オーボエを吹いたスハッドさんは、イラク戦争開戦時に作ったNoWar!ポスターの絵を描いてくれた女の子。父親が音楽学校の用務員だったので、人一倍楽器に触れることができた。



オーボエは鎌田代表からのプレゼント。「日本からの贈り物で、日本のために演奏ができて、とても幸せです。」と言ってくれた。

9歳だった少女が戦火を生き抜き、日本を応援してくれたことは、とても感慨深い。コンサートには



200人以上集まり、約4万円の募金が集まった。

この募金は津波の被害が大きかった北上地区の相川小学校へ寄付され、運動会用の紅白帽になった。

### ★イラク大使館の石巻訪問

バスラの院内学級にいたサブリーンちゃんの絵に、アラビア語で「希望」と書いた手ぬぐいを制作し、門脇小・湊小などの生徒や避難所に寄贈。(配布と視察をJIM-NETが協力)希望の湯のボランティア作業も手伝ってくださった。



### ★イラクの子どもたちからのメッセージ

JIM-NETが支援した子どもたちが、日本が地震や津波の被害を受けたことを聞き、応援のメッセージを寄せてくれた。2011年度のチョコ募金のカードには、そのメッセージを載せた。

(JIM-NETウェブサイトにも掲載中です。)



### ★石巻国際まつり・三反走まつり

世界の貧困問題の解決を求める意思表示のためのキャンペーン「スタンド・アップ テイク・アクション」に合わせ、津波や紛争などを乗り越え、地域コミュニティを作ってきた元気なリーダー達と震災復興を考えようと、海外ゲストが石巻を訪問。

イラクからはローカルスタッフのイブラヒムが来日。「今が最低でもそれを乗り越えて、前を向いて歩こう」ゲストと石巻の皆さんとの触れ合いの時間が持てた。



## ～地域医療振り返り 川添圭子(看護師)～

当初は女川や石巻を回り、ニーズ調査や物資配達を行い、大分県の医療チーム来てから、一緒にニーズ調査をしていくうちに活動内容が明確になりました。ボランティアさんの協力を得て活動を行っていましたが、5月からは重岡看護師と、なんとか二人で活動することができました。4月から9月までの主な活動は下記です。

- ①介護度の高い方から順に家庭訪問を行い、状態を把握し、保健師やケアマネージャーに報告
- ②介護サービスが受けられない介護保険利用者に対し、事業所に代わりサービスを補完
- ③その他の緊急支援活動

視覚障害者の方の全戸訪問、緊急通報システム利用者の全戸訪問、三歳児健診の手伝い、雄勝診療所・東松島のクリニックへ医師派遣

徐々に各事業所も通常通りに動きだし、補完する業務も少なくなり、仮設住宅支援へ移行しました。

仮設の集会所で体操や血圧測定などを行い、9時から17時までずっと誰かがいる空間を作りました。

7か所の仮設で、各仮設2週に1度のペースでした。

その中で、折り紙や編み物、カラオケ、パチンコ、クラフトワークなどを準備し、集まった皆さんが好きなことをできる場所を作りました。初めは知らない人同士でしたが、作り方を習ったりしている間に仲良くなり、中には住民だけで行事を企画、実施できるようになった仮設住宅もありました。



左：重岡看護師

右：川添看護師

被災地はこれからが勝負です。これからどうしようという声が増えています。私は今後も被災地で生きていこうと思います。

1年という短い間でしたが、たくさんの方に出会い、助けていただきました。

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

～皆様ありがとうございました～

イラクの小児がんの医療に特化して活動してきたJIM-NETが初めて行った国内の緊急支援でした。高齢者の介護医療や仮設風呂運営などまったく分野の違う活動を行うことができたのも、ボランティアや協力企業・団体の皆様のおかげです。長期間住み込みで来てくださった方々をはじめ、本当にたくさんの方々が石巻を訪れてくださいました。

また、募金や、車両、お風呂のアメニティグッズなど、寄付者の皆様からは、多くの励ましをいただきました。ありがとうございます。

石巻を訪れた際「この商店街の人を最も助けたのは千人風呂だ!」「JIM-NETの看護師さんが一番みんなのことをよくわかってる」と地元の皆さんに言っていただきました。

石巻の復興はまだまだこれからです。今後も石巻を応援していただければ嬉しいです。

最後に、現地で活動を共にし、運営に協力してくださった団体の皆様、そして私たちを温かく見守り、一番励ましてくださった石巻の皆さんに感謝します。

## ～今後の被災地支援 福島プロジェクトについて～

今まで劣化ウランの問題について取り組んできた経験を活かし、福島の子どもたちを放射能から守る活動を行っていきます。

原発事故後、今までJIM-NETが劣化ウランに取り組んで来たことを理解し、応援して下さるコメントがたくさん寄せられるようになりました。このことは、私たちが福島支援していく上で大きな励みとなりました。

残念ながらイラクへの関心が失われていますが、福島原発事故とあわせ、日本が、また世界が同じ過ちを犯さないため、この現実に向かい続けることが、私たちの使命と感じています。

今後とも応援をよろしくお願い致します。

福島プロジェクト  
チャリティーTシャツ  
1 2 3 4  
**FUKUSHIMA+T INITIATIVE**  
311 JIM-NET  
¥2,500

(¥1,000が募金になります)

生地:生成り/絵:ブルー&黒/文字:黒  
サイズ:レディースS・M・L メンズM・L



※同封の払込取扱票で納入し、お申し込みください。

## 【JIM-NETのサポーターに なってください!】

～サポーターはJIM-NETを支える応援団です～

### ◆サポーターの受けるサービス

1.子どもたちの絵を用いたバースデーカードをお送りします。



2.JIM-NETロゴ缶バッジを進呈します。

(2年目以降継続してくださった方には

特製シールを進呈します。)



3. 子どもたちの様子やイラク最新情報満載のJIM-NET便りを年4回送付します。

4.JIM-NET主催の報告会等の参加費が無料になります。

### ◆サポーターには2種類あります

『サポーター』(年会費3,000円)

年会費は上記サービスとJIM-NETの運営に充当されます。

『ラナ・サポーター』(年会費10,000円)

年会費のうち3,000円が上記サービスとJIM-NETの運営に、7,000円が支援活動費に充当されます。

### ◆お申し込みは郵便局で

同封の払込取扱票で

年会費を納入し、

お申し込みください。



石巻緊急支援プロジェクト報告書

発行: 特定非営利活動法人

日本イラク医療支援ネットワーク

発行日: 2012年6月30日

〒171-0033

東京都豊島区高田3-10-24 第二大島ビル303

info-jim@jim-net.net ☎ 03-6228-0746